

---

【1】令和7年度 千葉県児童生徒・教職員科学作品展 入賞者について

【2】「第15回科学の甲子園千葉県大会」の結果について

---

【1】令和7年度 千葉県児童生徒・教職員科学作品展 入賞者について

令和7年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展の入賞者が発表されました。

高校の科学論文の部では、渋谷教育学園幕張高等学校の生徒による研究が千葉県知事賞を受賞し、他に渋谷教育学園幕張高等学校の生徒による2つの研究、千葉市立千葉高等学校の生徒による2つの研究、千葉県立東葛飾高等学校の生徒による研究がそれぞれ特別賞を受賞し、この6件の研究が日本学生科学賞の中央審査（全国大会）に進みます。受賞者等は以下のURLをご覧ください。

<https://www.cgec.ed.jp/nc/wysiwyg/file/download/45/14688>

【2】第15回科学の甲子園千葉県大会の結果について

令和7年11月15日(土)に「第15回科学の甲子園千葉県大会」が千葉県総合教育センターにて行われ、21校35チームの生徒が参加しました。結果は以下の通りです。

○総合

優勝 県立東葛飾高等学校 A〔全国大会出場〕

準優勝 渋谷教育学園幕張高等学校 A

第3位 市川学園市川高等学校 A

○筆記競技

第1位 渋谷教育学園幕張高等学校 A

○実技試験

第1位 県立柏高等学校 A

優勝した県立東葛飾高等学校 A チームは、令和8年3月20日(金)から23日(月)にかけて茨城県つくば市で開催される「第15回科学の甲子園全国大会」に千葉県代表として出場します。千葉大学では科学の甲子園千葉県代表校である県立東葛飾高等学校 A チームへの強化トレーニングを実施予定です。大会結果の詳細等は下記のURLをご参照ください。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/press/2025/koushienkekka2025.html>

【編集後記】

月日の経つのは早いもので、もう年の瀬になろうとしている。今年の反省を込めて、5月から11月までの編集後記の内容を改めて読んでみたら、だんだん文字数が増えていて、本文よりも長くなっ

ていることがわかった。それでもせっかくなので、今回は投稿した内容に対する補足を書いてみた。

5月はAI、8月は量子コンピュータについて書いたが、AI生成論文の急増に伴い、arXivがコンピュータサイエンス分野の投稿に関する運用変更をしたとのこと。

詳しくは以下の記事を。

<https://www.itmedia.co.jp/aiplus/articles/2511/10/news029.html>

幅広く自身の研究を見てくれるツールとしてarXivは便利であるし、私も編集後記に度々リンクを貼らせていただいたが、AIが作成した論文はarXivではなく専用のサイトを作るなどして研究していただきたいものである。ちなみに、AIが書いた論文など、評価に値するものはまだないだろうと思っていたら、こんな記事を見つけた。

<https://sakana.ai/ai-scientist-first-publication-jp/>

世の中は自分が思いもよらない速さで進化しているのだと知って愕然とした。

6月と11月は数学の話題を取り上げたが、追加で紹介したい話題はこちら。今ならこの話を数学嫌いの生徒に伝えられる。後者は現時点ではネタにすぎないが、将来実用化されるのかもしれない。

「高校で数学を「捨てる」と重要な脳内物質が減少する」

<https://nazology.kusuguru.co.jp/archives/90644>

「脳に電気ショックを与えると数学の成績が最大29%も向上すると判明」

<https://nazology.kusuguru.co.jp/archives/181210>

7月はドジャースの大谷翔平選手と将棋の藤井聰太竜王・名人について書いた。

ご存知の通り、ドジャースはワールドシリーズ2連覇し、大谷選手はリーグ優勝決定シリーズMVP、レギュラーシーズンMVP、シルバースラッガー賞、エドガーマルチネス賞、ハンクアーロン賞、オールMLBファーストチーム選出、と多くの賞を獲得し、今年も素晴らしい活躍だった。また、山本由伸投手はワールドシリーズMVPとなり、不調や怪我で出遅れた佐々木朗希投手もポストシーズンではリリーフ投手として活躍した。総じて、今年のMLBのポストシーズンの試合はドジャース戦以外も面白かった。来年のシーズン開幕まで待ち遠しいが、その前にWBC(ワールドベースボールクラシック)がある。ドジャース所属の日本人3選手がチームJAPANに参加するのか否かは球団側の判断で決まるようだ。2023年のような大活躍が見たい気持ちと無理をしてけがをしてほしくないという気持ちが共にあり、複雑な気分だが、参加することになれば応援させていただく。もちろん、参加の有無に関わらず日本の優勝を期待したい。

藤井聰太竜王・名人は伊藤匠叡王との王座戦5番勝負において2勝3敗で敗れ、6冠に後退したが、竜王戦では2年連続の挑戦となった佐々木勇気8段に4連勝し、タイトルを防衛、棋聖・王位に続き3つ目の永世称号を獲得した。年度内のタイトル戦は来年1月からの王将戦、2月からの棋王戦だが、王将戦の挑戦者は永瀬拓矢9段。名人戦では1勝4敗、王位戦では2勝4敗と藤井聰太6冠に敗れたものの、今年度3回目のタイトル戦挑戦は素晴らしい。今回も名勝負になることを期待している。棋王戦は挑戦者決定トーナメントが大詰めを迎えており、トーナメントで勝ち残っているメンバーが若手の実力者揃いなので、だれが挑戦するにしても面白いシリーズになることが期待できる。

10月はノーベル賞とイグノーベル賞を取り上げたが、イグノーベル賞のその後を辿るとなかなか面白い。例えば、明治大学の宮下芳明教授は2011年に発表した「通電させた箸やストローが、味覚を変化させることを実験した」ことで、2023年のイグ・ノーベル賞栄養学賞を受賞した。この研究は「エレキソルト」の名前で商品化され、2025年11月からは、家電量販店でも販売展開されるそうだ。宮下教授は他にも味覚に関する様々な研究をされている。詳しくはこちらを。

<https://www.meiji.ac.jp/koho/press/2023/ignobelprize.html>

2024年は東京医科歯科大学の岡部亮氏らの研究チームが「哺乳類でも腸を使って酸素を吸収できることを実験で示したこと」に対してイグノーベル生理学賞を受賞した。その後、この研究チームは人でも同様のことができるかどうか実験している。これにより、人工呼吸器を使えない場合でも呼吸ができる可能性が広がり、新たな治療法に繋がる有益な研究であることが示された。

<https://nazology.kusuguru.co.jp/archives/186850>

今年のイグノーベル生物学賞の「黒い牛にシマウマ模様を描くと、ハエに刺される回数が半減した研究」は、殺虫剤に頼らない害虫対策につながる可能性があり、かつ牛のストレス軽減にも繋がるため、経済的損失を減らす効果が期待される。詳しくはこちらを。

<https://aisyousetu.com/entry/shimaushi-igunooberu-2025-cow-stripe>

因みに、イグノーベル賞の賞金で使われるジンバブエドルはアマゾンなどで購入することができるが、実際の価値よりも遥かに高額である。話のタネに使うことはできるが、そのためにかかる費用が釣り合っているかどうかは人それぞれということで。

さて、また本編より後記の方が長くなってしまったが、来年もまた気になることや興味のあることを書いていこうと思う。少々早いですが皆様、良いお年を。(金)